



# Lamborghini 2022

## 挑戦するランボルギーニ

[世界限定40台] エッセンサSCV12

[最終進化形の味] ウラカンSTO vs ウラカンEVO vs ウラカンEVO RWD スパイダー

[NA V12最後の咆哮] アヴェンタドールS in オートポリス



ポルシェ特選ショップ

ポルシェ・ミッションR初試乗!

最新スペチャーレ: フェラーリ・デイトナSP3



灯火類はメルセデス純正ナイトパッケージで。さらにUSサイドマークと同じ質感にしながら組み合わせる工夫が見られる。グリルまわりはラッピングやペイントで黒く落とし込んだ。そこにさりげなく、プラバス製ディライト付きリップスポイラーを投入した。

灯火類はメルセデス純正ナイトパッケージで。さらにUSサイドマークと同じ質感にしながら組み合わせる工夫が見られる。グリルまわりはラッピングやペイントで黒く落とし込んだ。そこにさりげなく、プラバス製ディライト付きリップスポイラーを投入した。

いかにもプラバスらしい強靭さを感じさせるモノブロックYフォージド。ECスペックは元の塗装を剥離してボリッシュ加工、その上から特殊な塗装を乗せることでプラッシュロームっぽい仕上げとした。前輪の背後に備わるプラバス製エキゾーストや、キャリバーペイントとも調和する。



エンブレムやスペアタイヤカバーも黒で統一している。遠目から見たら黒くめながらも、あらゆるディテールの色調や質感にこだわり抜いたことで、個性豊かな“黒技”となった。



続けるのが難しい。しかし、それでも黒色に挑むオーナー氏の心意気には共感する。上質なボディコートティングが手伝って、いつ何時も新車のような状態を維持しているという。とはいっても愛でるのではない。雨が降ろうが臆せず連れ出す心意気がいい。この日雨上がりの晴れた空から降り注ぐ日差しがボディを鮮やかに照らしつけ、残った水滴がキラキラとこぼれていく様子は、とても

レムなども、すべて同色で統一することも忘れない。ボディ側をすべて黒基調で整えれば、先に触れたプラバス製フロントリップスポイラーの強調されるところだ。福岡に本拠を構えるECスペックのコーディネート術には、いつも感心させられる。

プラバスのアイテムは、足もとを支えるホイールと、顔つきを引き締めのエッセンスをほんの少しだけ切り取つて、さりげなくAMG G63を引き立てる。福岡に本拠を構えるECスペックのコーディネート術には、いつも感心させられる。

こうしたアレンジはまだまだ続く。存在感を訴えかけるフロントグリルはラッピングによって同じく黒へ。そのほかバンパーにある縦のメッキパネルは塗装によって落としている。もちろん背面タイヤカバー エンブ

ラバスのGクラスといえば、迫力のワイドボディとスリーパーカー顔負けの出力性能を持つワイドスターを思い浮かべる。それは確かに世界最高峰の存在感を持つが、そのエッセンスをほんの少しだけ切り取つて、さりげなくAMG G63を引き立てる。福岡に本拠を構えるECスペックのコーディネート術には、いつも感心させられる。

プラバスのアイテムは、足もとを支えるホイールと、顔つきを引き締めのエッセンスを感じる。

# EC.SPEC Mercedes-AMG G63

老舗を引き立てながら  
“黒技”を極める

めるフロントリップスポイラー、そしてバルブ付きエキゾーストシステムなど。ホイールは正確にはプラチナモノブロックYフォージド。プラチナムエディションという。サイズは前後とも11・0J×23インチ。ホイールは24インチ。という二択になりがちのなかで、プラバスは自のセッティング技術を信じて、23インチを積極的に使う。ECスペックは前後とも305/35R23。アウトバーンを全開で走れるセッティングである。

Gクラスの大口径化となると、22インチ化が定番で、究極的には24インチ。という二択になりがちのなかで、プラバスは自のセッティング技術を信じて、23インチを積極的に使う。ECスペックは前後とも305/35R23。アウトバーンを全開で走れるセッティングである。

注目したいのはホイールフィニッシュ。純正色を剥離してボリッシュ加工をそのままに乗せることによって、まるでブラッククロームっぽい色味とした。黒でもシルバーでもない絶妙な質感が、Yフォージドといふ名のメッシュデザインを浮き立たせている。さらに前輪の後ろに突き出るブラッククローム・テールパイプとの統一感も生み出した。スポーツバーに置き換えて、ロゴを加えるなどの小技も光る。

全身くまなく、黒色。のようでいて、こうしたひと工夫を加えるのがECスペックの得意技だ。それはボディの奥に潜むAMGキャリバーパークの純正ナイトパッケージを、シルバーに置き換えて、ロゴを加えるなどの小技も光る。

全身くまなく、黒色。のようでいて、こうしたひと工夫を加えるのがECスペックの得意技だ。それはボ

ディ全体において。灯火類はメルセデス純正のナイトパッケージに、インナーブラックヘッドライトに加え、ウインカーレンジやテールライトをスマート化するものだ。これによりクレンズ化するものだ。これによ

# EC.SPEC

■ECスペック

GENROQ PHOTO&REPORT

## INFORMATION

営業時間／10:00～20:00

定休日／日曜日、第3月曜日

〒810-006

福岡県福岡市中央区地行3丁目26-62

092-406-1414 <http://www.ec-spec.jp>



店内にはハイエンド鍛造ホイールがズラリと陳列される。実物を前に、色や仕様、サイズなどを相談できるのは心強い。現在、頻繁に取り入れるブリクストン・フォージドや1221ホイール、ADV.1ホイールなどが展示されていた。



←レンジローバーをはじめとしたSUVに特化した英国チュナーのアーバンオートモーティブのホイールが装着されていた。彼らはこういうユーロチュナー系の使い方も巧い。

→博多中心部からクルマで15分ほど。大通りに面したところにECスペックはある。福岡都市高速環状線からもほど近くアクセスは良好だ。フラリと立ち寄っても歓迎してくれる



マンソリーのホイールを装着したマットブラックのレンジローバースポーツ。カラーコーディネートやホイール選びの相談にはECスペックは最適。最新トレンドを教えてくれる。

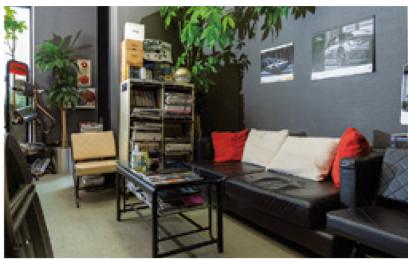
←最近では車両販売する例も増えてきた。純然たる新車からユーズドカーまで条件に見合ったクルマと一緒にになって探してくれる。その後のカスタムの相談だってウエルカムだ

世界各国にアンテナを張り巡らせ、最新トレンドをいち早く吸収してきた。福岡に店舗を構えるECスペツクは、そんな土壤のもとでセンスのいいカスタムカーを提案する。

九州全域から本州西部、四国まで遠くのユーザーでも親身になつて相談に乗り、今では九州エリアに欠かせない存在となつた。彼の地のプロ

**創業28年**という歴史が織りなす確固たる技術力やバーツの選定眼。昨今はアメリカを中心とした世界各国にアンテナを張り巡らせ、最新トレンドをいち早く吸収してき

特にホイールセレクトを含む足まわりの構築には長けていて、クルマ固有の世界観を活かした「コーディネート」をしてくれる。最近では車両販売にも力を注いでいるので、クルマ選びから相談できるのが嬉しい。



アットホームな雰囲気の漂うショールーム。決して広くはないものの、だからこそ落ち着いて相談や商談ができる居心地のいい場所だ。パーソンサンプルや資料も豊富に揃っている。



フェラーリやレンジローバー、そしてメルセデスなどブランドや車種を問わずに入庫してくる光景こそがECスペックの真骨頂。整備やカスタムの技術には確固たる自信がある。